

日本紅斑熱患者の発生について

市内医療機関から日本紅斑熱患者の発生届出が3件ありましたので、注意喚起のためお知らせします。

1 患者の状況

	1例目	2例目	3例目
年代・性別	70代・男性	70代・女性	60代・女性
診断年月日	令和3年10月5日	令和3年10月5日	令和3年10月7日
発病年月日	令和3年9月23日	令和3年9月23日	令和3年10月1日
主な症状	発熱、刺し口、発疹、 肝機能異常、筋肉痛	発熱、刺し口、発疹、 肝機能異常、筋肉痛	発熱、刺し口、発疹
現在の状況	軽快	軽快	軽快

2 岡崎市及び愛知県における過去5年間の日本紅斑熱の届出状況(令和3年10月11日現在)

	R3年度	R2年度	R元年度	H30年度	H29年度
岡崎市	3	0	0	0	0
愛知県(岡崎市を含まず)	0	3	0	1	0

3 日本紅斑熱について

(1) 日本紅斑熱とは

日本紅斑熱は、病原体(日本紅斑熱リケッチア)を保有するマダニに咬まれることで感染しますが、人から人への感染はありません。マダニの活動が活発化する4月から10月、主に太平洋側の温暖な地域に患者が多く発生しています。

(2) 症状

マダニに咬まれてから2日から8日後に頭痛、全身倦怠感、高熱などを伴って発症します。発熱、発疹、および刺し口が主要三徴候です。重症化して死亡することもあります。適切な治療がなされれば予後は一般に良好です。

(3) 予防方法

山林、草地、川原などに入る場合には、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用して肌の露出を少なくします。家族から屋内へ持ち込まれたと推定されるマダニにより発症した例もあるため、屋外活動後は衣類をしっかりとほらうとともに、入浴時には身体にマダニが付いていないか確認しましょう。

4 市民の皆様へ

- ・ 山林、畑や河川敷に行った後に、頭痛やだるさが強く、高熱が続いたり、発疹が出た場合には、早めに医療機関を受診してください。
- ・ マダニに咬まれた時は、無理に引き抜こうとせず、医療機関で処置(マダニの除去など)を

してもらってください。

- ・ マダニに咬まれた後は数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けてください。
-

<お問い合わせ先>

担当部署：保健部保健予防課

報道責任者：課長 中根敏裕 TEL:0564-64-1570

担当者：主任主査 土屋啓三 TEL:0564-23-5082